

「死」と「看取り」を考える

第2期

— 超高齢・多死社会を生きる私たちに必要なこと —

■ 講座内容

「死」や「看取り」は本人、家族、友人を含め、生涯のなかで誰もがかならず直面することになる問題です。しかし、医療関係者以外の一般の人びとにとっては「その時」が来なければ、こうした問題について学んだり考えたりする機会はほとんどありません。この問題は、今後の超高齢・多死社会の進行とともに、ますます重要かつ身近なものになるでしょう。

本講座では、第1期講座に引き続き、死を目前にした人にとどのように向き合えばよいのか、愛する人や身近な人を失った悲しみをどのように乗り越えることができるのか・どのような支援ができるのかなど、死の捉え方、死に逝く人との向き合い方、死をめぐる心のケアのあり方等について、医療（医学・看護学）、人文科学（文化人類学、歴史学、心理学）、臨床宗教の各分野から、最新かつ現場での経験に基づく知識と実践を紹介いたします。これからの「死」と「看取り」のあり方について、参加者の皆さまと一緒に考えてみたいと思います。

■ 講師

第1講：ワウルデマール・キッパス NPO法人臨床パストラル教育研究センター理事長

第2講：波平 恵美子 お茶の水女子大学名誉教授・元日本文化人類学会会長

第3講：浦 綾子 福岡大学医学部准教授

第4講：吉岡 久美子 福岡大学人文学部教授

第5講：白川 琢磨 福岡大学人文学部教授

■ 講義内容

講	月	日	曜日	担当	講義内容
1	10	21	土	キッパス	スピリチュアルな痛みのケア 人生は皆に平等ではなく、また思うとおりの過程ばかりではありません。例えば、「なぜ、がんになったのか」「なぜ死ななければならないのか」「生きることに何の意味があるのか」。薬や手術ではなく、このようなスピリチュアルな叫びを聴きとり応答しようとする心の力があります。スピリチュアルケアは一人ひとりに内在しているその心の力を発見し、その人らしく生きられるための手助けです。スピリチュアルケアは単なるノウハウによって得られるものではなく、意識的な生き方による成果です。
2	10	21	土	波平	死生観を共有する手段としての死者儀礼 生と死の観念を明確に言語表現によって共有することは容易ではありません。一方、儀礼は、明確に内容を規定することはありませんが、人それぞれの生きてきた経験を基盤とすることによって、多様で多義的な意味を、曖昧性を含みながら、公開性をもって広く伝達します。死者儀礼を発達させた日本文化のありようと、また、死生観のありようおよびその変化について解説します。
3	11	4	土	浦	緩和ケアー「その人らしく生きる」を支えるー 人はいのちに限りがありいつか「死」を迎えることは漠然と認識しています。しかし、「死」に直面したとき、自分の最期をどう生きるのか、家族の最期をどう看取るのかはあまり考えていません。死を迎える場所として自宅を希望する人は多いのですが、現状では病院での死が8割を占めています。人の死は日常から切り離され、「死」に関する多様な不安を抱えています。本講では、「死」を意識する病になった時、「死」が差し迫った時の患者と家族の全人的苦痛と緩和ケア、いのちの最期を「その人らしく生きる」ための看護支援についてお話します。
4	11	4	土	吉岡	介護者のメンタルヘルス 本講では、主に高齢者の「看取り」に焦点をあて、看取る側のメンタルヘルスについて話題にし、臨床心理学の立場からメンタルヘルスの考え方や基礎的な知識などについて紹介します。介護者が自身のメンタルヘルスを大切にしながら、看取りのプロセスを大事にしていけるように、受講者の皆さまと一緒に考えたいと思います。
5	11	4	土	白川	死と宗教をめぐる これまでの講座を振り返りながら宗教学の観点から総括します。

開講日	10/21・11/4 土曜日 5回
開講時間	10/21:13:00~16:30(休憩はさむ) 11/4:10:30~16:30(昼食休憩はさむ)
対象・定員	一般・学生 100人
会場	福岡大学
受講料	2,500円 (5講)
受付・申込方法	先着順・5ページの申込方法参照 ※8月下旬から秋季講座でも募集します。
共催	福岡大学 福岡・東アジア・地域共生研究所